

学校教育課長 様

神戸市立神戸工科高等学校長 村上 昌也

令和7年度学校マネジメントプラン計画書

1 学校マネジメントプランの策定期間

令和 5 年 ～ 令和 7 年（3 年間）

2 目指す学校像

急激に変化が進む現代社会において、定時制高校では多様な対応が求められている。生徒一人ひとりの適性に応じた教育活動を行い、個々の能力・個性を伸ばすとともに「ものづくり」を通して「自ら考える力」を育て、創造力豊かな人材の育成を目指す。

社会の変化に柔軟に対応し、複雑化・多様化する社会課題に主体的に取り組み、自立できる人間性豊かな人材の育成を目指す。

関係機関や企業などと連携し、生徒や教員が職業観・勤労観を育むとともに、専門的な分野の技術力の向上を図る。

3 中期経営目標と中期行動計画

「目指す学校像」の実現をより確かなものとするため、中期経営目標と中期行動計画を策定する。

中 期 経 営 目 標	中 期 行 動 計 画
1. カリキュラムマネジメントの視点から、これからの時代に求められる資質・能力を踏まえつつ、令和4年より年次進行で導入されている新学習指導要領の理念に基づいた教育を推進する。	(1) 学習内容と社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の精選を図る。 (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、生徒が主体的に考え、他者と協働して課題解決を図ろうとする探究的な授業改善に向けた取組を推進する。 (3) 授業におけるICT機器の効果的な活用について研究し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
2. キャリア教育の視点から一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育む。	(1) 職業を通じて未来の社会を創り上げていくという視点から、インターンシップ、企業内研修、応募前見学、オープンキャンパス等への参加を推進し、主体的な職業選択能力や高い職業意識の育成を図る。 (2) 4年間を見通したキャリア教育プランを立案するとともに、キャリア・パスポートを活用し、目標設定、取組、振り返りと評価のサイクルに基づいた取組を推進する。
3. ものづくり教育を通して社会に貢献できる人材を育成する。	(1) 資格・技能検定試験に積極的に取り組み、知識・技能の向上を図り、自尊心と自己有用感を高める。 (2) 6S活動を通じて、安全衛生教育の推進を図り、安全管理意識の醸成を図る。 (3) 令和4年度より市立工業高校において実施されているK-SMART Engineers育成事業において、企業と学校が連携し、「未来志向型エンジニアリングの育成」と「ものづくりを通して人づくり」をテーマにDX時代につながる人材の育成に取り組む。 (4) 令和6年度に採択された文部科学省「DX加速化推進事業」において、DX人材の育成につながる取組について研究と実践を進める。

4. インクルーシブ教育システムの理念をもとに、個々の違いを認め合いながら、共に学び、いきいきと学校生活を過ごせる環境を構築する。	(1) 障害の状態や発達の段階に応じた合理的配慮について組織的な支援を継続的に行うことによって、一人ひとりの生徒に応じた指導の充実を図る。 (2) 多様な生徒に対応する取組として令和5年度に設置された日本語教室において日本語教育の向上に取り組む。 (3) 生徒が安心して学校生活を送り、互いに尊厳を重んじ尊重し合う社会の実現を目指し、人権教育の推進を図る。
5. 教職員の働き方改革を推進する。	(1) 教職員の尊厳や人格が尊重され、安心して勤務できる風通しの良い職場環境を構築する。 (2) 教職員が心身ともに健康でいきいきと働ける職場環境の実現を図る。

4 重点目標と行動計画

重点目標	行動計画	評価指標
1. カリキュラムマネジメントの視点から、これからの時代に求められる資質・能力を踏まえつつ、令和4年より年次進行で導入されている新学習指導要領の理念に基づいた教育を推進する。	(1) 学習内容と社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の精選を図る。	・ 新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた教科・科目で目標や内容を見直し、育む資質・能力を明確化する。
	(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、生徒が主体的に考え、他者と協働して課題解決を図ろうとする探究的な授業改善に向けた取組を推進する。	・ 研究授業を通じ「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視し、生徒が主体的に試行錯誤したりし、生徒同士が相手の考え方を理解し自己の考えを広げ深める授業の展開を図る。
	(3) 授業におけるICT機器の効果的な活用について研究し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。	・ 全HR教室に配備された電子黒板を活用し、動画や画像によって効果的な授業を展開したり、タブレット等を使用し他者と協働したりして、自分なりの答えや新たな価値を生み出していく授業の展開を図る。
2. キャリア教育の視点から一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育む。	(1) 職業を通じて未来の社会を創り上げていくという視点からインターンシップ、企業内研修、応募前見学、オープンキャンパス等への参加を推進し、主体的な職業選択能力や高い職業意識の育成を図る。	・ 4年間の学校生活においてインターンシップ、企業内研修・見学、応募前見学、オープンキャンパス等学校見学の参加を促す。

	(2) 4年間を見通したキャリア教育プランを立案するとともに、キャリア・パスポートを活用し、目標設定、取組、振り返りと評価のサイクルに基づいた取組を推進する。	・生徒自ら自己を見つめる場を設け、趣向や得意不得意、目標等を記録し、定期的にキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を記録し、教師は対話的に関わり個性を踏まえつつ助言を行い生徒の成長を支援する。
3. ものづくり教育を通して社会に貢献できる人材を育成する。	(1) 資格・技能検定試験に積極的に取り組み、知識・技能の向上を図り、自尊心と自己有用感を高める。	・各コースにおいて定める基準に沿って、資格試験にチャレンジし平均8割の合格率をめざすために補習などを行う。
	(2) 6S活動を通じて、安全衛生教育の推進を図り、安全管理意識の醸成を図る。	・実習においては、「安全第一」を重視し怪我や事故の件数ゼロを目指す。
	(3) 令和4年度より市立工業高校において実施されている、K-SMART Engineers育成事業において企業と学校が連携し、「未来志向型エンジニアリングの育成」と「ものづくりを通して人づくり」をテーマにDX時代につながる人材の育成に取り組む。	・本校、工業の特性に合わせ、企業と連携を図り、地元産業に貢献できる生徒の育成を目指す。
	(4) 令和6年度に採択された文部科学省「DX加速化推進事業」において、DX人材の育成につながる取組について研究と実践を進める。	
4. インクルーシブ教育システムの理念をもとに、個々の違いを認め合いながら、共に学び生き生きと学校生活が過ごせる環境を構築する。	(1) 障害の状態や発達の段階に応じた合理的配慮について組織的、継続的な支援を行い一人ひとりの生徒に応じた指導の充実を図る。	・令和5年度より、新しく立ち上げた、特別支援教育コーディネータを中心とした校内組織により、入学前中学校訪問や教育相談を実施し、これらを踏まえニーズに応じた教育支援策を講じる。 ・必要に応じ個別指導計画を立案し卒業後の社会生活を見据えつつ、円滑な学校生活が過ごせるよう学校全体で合理的配慮を実施する。
	(2) 多様な生徒に対応する取組として令和5年度に設置された日本語教室において日本語教育の向上に取り組む。	
	(3) 生徒が安心して学校生活を送り、互いに尊厳を重んじ尊重し合う社会の実現を目指し、人権教育の推進を図る。	・年3回の生徒いじめ実態把握調査を実施し、早期発見・早期対応を行う。 ・インターネットやソーシャルメディア利用に起因する問題の増加を鑑み、教員向け情報セキュリティ研修と生徒向けの情報モラル研修を実施する。

5. 教職員の働き方改革を推進する。	(1) 教職員の尊厳や人格が尊重され安心して勤務できる風通しの良い職場環境を構築する。	・ ハラスメントを「発生させない、許さない、見過ごさない」ことを基本とし、教職員一人ひとりの尊厳や人格が尊重される職場づくりに取り組む。 - また、教員向けのハラスメント研修を実施する。
	(2) 教職員が心身ともに健康でいきいきと働ける職場環境の実現を図る。	・ 勤務時間内に仕事が終われるよう組織的な業務改善を図るとともに、個々の役割を明確にし、働きがいのある職場を目指す。